

馬肉医心

ばかんいしん



下関医療センター 馬肉医心 夏号 vol.2/2014

* 看護の日 メッセージカードとカーネーションのプレゼント *

平成26年5月14日(水)に看護の日の行事として、メッセージカードにカーネーションを添えて患者さんに受け取っていただきました。

新人看護師が、笑顔に優しい看護の心をこめてお渡しし、患者さんからは「ありがとう」のひと言をいただきました。多くの患者さんとの“ふれあい”を感じることができる貴重な時間を持つことができ、感謝の気持ちが深まりました。

文責 看護師長 奥野美穂



* ふれあい看護コンサート *

平成26年5月16日(金)15:00~16:00、1階外来ホールで看護週間よせて、「院内ふれあいコンサート」を開催しました。

昨年に引き続き、ドリーム オブ チルドレンのみなさんにご協力いただき、ギターとシンセサイザーによる演奏会を行いました。なつかしい歌謡曲、童謡を一緒に口ずさみ、時には手拍子で盛り上がり、楽しいひと時を過ごす事ができました。

入院、外来患者さん、入所者、御家族の方や、地域の方々にお集まりいただき、ホール全体に歌声が響き渡りました。気分転換の場、地域住民の皆様との交流の場になれば幸いです。

文責 看護師長 高野和恵



* 今後の病院行事のご案内 *

肝臓病教室
【一般の方向け】

7/25(金) 「特殊な肝炎アップデート!」～特殊な肝炎の診断と治療～
講師：下関医療センター 肝臓病センター 木村 輝昭

8/22(金) 「肝硬変アップデート!」～肝硬変の診断と治療～
講師：下関医療センター 肝臓病センター 木村 輝昭

9/26(金) 「肝癌アップデート!」～肝癌の診断と治療～
講師：下関医療センター 肝臓病センター 加藤 彰

14:00～16:00 場所：健康管理センター 4階大ホール

臨床栄養勉強会
知らなきゃソソ塾
【医療従事者向け】

8/21(木) 会場：安岡病院
18:30～

11/20(木) 会場：関門医療センター
18:30～

12/18(木) 会場：昭和病院
18:30～



【理 念】

最新の知識と医療レベルを駆使して、地域住民に誠心誠意奉仕します

【基本方針】

1. 病める人の立場に立ち全人的医療を実践します
2. 地域連携を推進し、地域に密着した医療を展開します
3. 良質・最新の医療を提供するため、日々の研鑽と人材育成に努めます

独立行政法人地域医療機能推進機構
下関医療センター

郵便番号750-0061 下関市上新地町3丁目3番8号
TEL.083-231-5811(代表) FAX.083-223-3077
TEL.083-231-7887(健康管理センター)

I N D E X

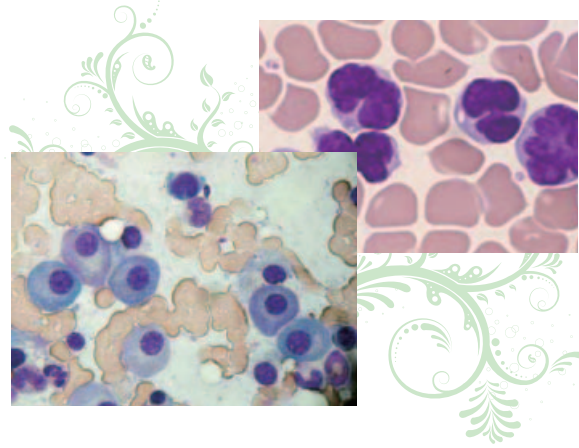
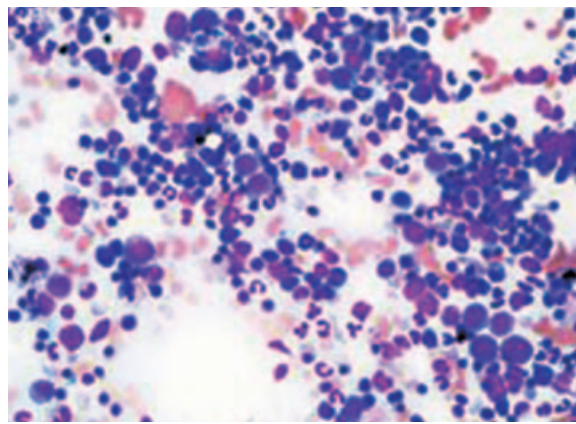
血液内科ご紹介 P2~P3

看護の日 メッセージカードとカーネーションのプレゼント... P4
ふれあい看護コンサート 今後の病院行事のご案内

PHOTO/海(沖縄)

血液内科の守備範囲

みなさんは、血液内科で担当する病気といったら、どのようなものをお考えでしょうか？白血病などの血液がんを筆頭に、血液内科紹介と言われたら、厳しい病気を予想することが実際のところではないでしょうか。確かに白血病は難病の代表のような印象があるでしょうし、その他代表的な疾患も悪性リンパ腫や多発性骨髄腫など、悪性腫瘍＝がんと呼ばれる疾患であります。実際に血液内科で扱う疾患は、白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などの造血器悪性疾患が主体ではありますが、鉄欠乏性貧血などの貧血や、血小板減少や凝固系異常などの比較的身近な問題など、多岐に渡っています。骨髄穿刺針を用いた、造血工場である骨髄の評価をはじめ、データ・血液標本の解析を中心として、病態の全貌を捉えていく、極めて内科的な仕事を中心です。



当院血液内科の役割

当血液内科診療は、正確な診断・適切な治療の選択・確実な治療遂行を3つの大きな柱と考えています。血液内科疾患は、臓器指向性というよりも、全身症状を惹起する病態が多いことが特徴で、他科との連携が非常に重要となり、血液内科が積極的に活動できる環境は、病院における総合力の指標の一つではないかと考えています。

例えば診断においては、病理診断科の迅速で正確な診断、検査科メンバーの検鏡スキルの高さ、外科先生方のリンパ節生検における対応の速さなどは、当院が誇る財産の一つと考えており、目一杯利用させて頂き、当科の活動の原動力となっています。このように素晴らしい環境のもと、下関30万医療圏での血液疾患の最初の玄関口として、と同時に最後の砦としての重責を自覚しています。

血液疾患治療の展望

白血病・骨髄異形成症候群・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫は、血液内科における代表的な腫瘍性疾患ですが、日々飛躍的な治療成績の向上があります。例えば慢性骨髄性白血病(CML)という病気は、骨髄移植を行わなければ、いずれ急性転化を生じてしまう、致死率の高い疾患でした。しかしこの病気を引き起こす染色体異常に狙いを定めた分子標的治療が2000年代初頭に開発され、ほとんどの方が内服薬だけで、健康な生活を取り戻すことができるようになりました。多発性骨髄腫にしても、次々に新規薬剤が開発され、確実に生活の質を改善がなされている時代であることを実感します。こうした治療の進化を的確に捉え、地域医療に還元していくことを強く意識しています。一方、難治性疾患では造血幹細胞移植治療を検討しますが、その適応・移植方法の検討を迅速にコーディネートすることが課題となっています。治療方針の選択にあたっては、山口・北九州地区の血液内科医との研究会を主催し、各症例において治療方針を検討しています。先端的治療も加味した標準治療に加え、患者背景を加味した最良の方針を打ち出せるよう努力しています。

確実な治療の遂行

当科は無菌室7床を東7階病棟に備え、高度の免疫抑制状態への対応も万全に行っています。連日多くの抗癌剤治療の調剤や投薬管理を行う薬剤部の活躍、東7病棟看護師達のきめ細かく、プロ意識あふれる対応など、決定した治療方針を確実に遂行する環境が整っていると自負しています。このように血液内科においては、様々な部門の協力が円滑に得られてこそ、最良の医療を提供できるものと考えています。



今後のありかた

当科の患者さんは殆どが悪性腫瘍である特性があります。また高齢者の割合は年々大きくなっている印象で、精神看護や社会背景を含めたトータルケアを重視し、治療もさることながら、QOL=生活の質を重視した総合的な医療の実践が必要となっています。

EBM=Evidence Based Medicine、つまり最新最良の医学知見を基礎にした医療を展開していくことはもちろんですが、NBM=Narrative Based Medicine=「患者中心の医療」つまり患者のニーズに応じ、患者満足度を高め、「病気が良くなる」という最終アウトカムに到達するためにはどうすればよいかを患者さんとともに悩みながら、何らかの結論をご提示することを目標としています。

今年度より若手血液内科医師・松隈先生の加入で、より一層熱さの増した当科、今後も治療への情熱をたぎらせながら、皆様のお役にたてればと考えています。



文責 血液内科部長 縄田 涼平